

観光資源の高度化に向けた VRの活用

施策内容

- 文化財情報を集約し、情報発信や利用者が求める情報を容易に検索できる機能を持ったポータルサイト「文化遺産オンライン」を構築

現在の画像デジタル化・公開状況

	指定等件数	画像デジタル化件数	割合	公開件数	割合
国指定文化財(選定を含む)	17,200	14,372	84%	8,833	51%
国宝、重要文化財	13,166	11,114	84%	5,601	43%
無形文化財	108	62	57%	43	40%
民俗文化財	523	491	94%	485	93%
記念物	3,228	2,545	79%	2,545	79%
重要文化的景観	58	43	74%	42	72%
重要伝統的建造物群保存地区	117	117	100%	117	100%
国登録文化財	11,662	11,647	100%	11,364	97%
地方指定文化財	110,771	4,983	4%	4,983	4%

(平成30年2月現在)

現状と課題

①画像のデジタル化・公開が一部未対応

- 国指定文化財に係る文字情報(名称・説明文等)は全てデジタル化の上、公開済み
- 画像については、デジタル化が8割強、公開が5割強にとどまっている。

②二次利用に向けた条件が未整備

- 公開している画像は、権利者から二次利用の許諾を得ておらず、自由に利用できる状態ではない。

③多言語対応が未整備

- 日本語対応のみ

文化遺産オンライン
Cultural Heritage Online

登録種別91 種、作品登録件数115547 件 2015年01月08日現在

カテゴリから見る
登録された画像・作品詳細を以下のカテゴリから見ることができます。

時代から見る
分野から見る
文化財体系から見る

文化遺産オンラインは、ポータルサイトです。さまざまな情報をご覧いただけます。

文化遺産オンライン
Cultural Heritage Online

時代から見る 分野から見る 地図から見る 文化財体系から見る 美術館・博物館を探す

文化財体系から見る

文化財体系
文化財体系
文化財体系

文化遺産オンラインは、ポータルサイトです。さまざまな情報をご覧いただけます。

文化遺産オンライン
Cultural Heritage Online

時代から見る 分野から見る 地図から見る 文化財体系から見る 美術館・博物館を探す

八橋時経蟬蛸箱(尾形光琳作) つかしまえらでんすずりば(あかたこうりんさ)

工芸 / 江戸 / 関東

尾形光琳
東京都
江戸
16
東京国立博物館 東京都台東区上野公園13-9
重文指定年月日: 19670615
登録年月日:
独立行政法人国立文化財機構
国宝・重要文化財(美術品)

二段重むで上を破入れ、下を和紙入れとした破箱で、表面及び側面に八橋とそこに咲き乱れる燕子花(かきつばな)の装飾を視す。黒漆の漆の地に梅もみ、秋もみ、花もみ、雲と雲は金平漆で描き、内部も黒漆の地に金平漆で、しつる光輝を力強く、光琳(一六五八—一七一六)得意の燕子花図の意匠を用いて精緻破箱にまとの上げたものである。

作品所在地の地図

新三河島 東京都台東区 地図 航空写真

西日暮野 東京都台東区 地図 航空写真

八橋時経蟬蛸箱(尾形光琳作) 東京都台東区 国指定文化財データベース

関連リンク

国指定文化財データベース(文化庁)
国指定文化財データベース(文化庁)
国指定文化財データベース(文化庁)
関連する書籍を探す

文化遺産オンライン
文化情報ページ

今後の方向性

文化遺産オンラインへ掲載している全ての文化財情報について、画像のデジタル化、二次利用に向けた条件整備、多言語対応等を図っていくこととし、まずは、国指定文化財から、これらの取組を迅速かつ計画的に推進する。

①画像のデジタル化・公開の促進

- デジタル化していない画像（約3,000件）のデジタル化を促進
- 公開の許諾を取っていない画像（約8,300件）、及び新指定文化財など新たにデジタル化する画像について、文化遺産オンラインでの公開に係る権利処理を実施

②二次利用に向けた条件整備の促進

- 原則として全ての画像について、二次利用に係る権利処理を行い、許諾が得られたものから二次利用への対応を実施

③多言語対応の促進

- 公的機関等が作成している既存のコンテンツを活用し、速やかに多言語対応化（内容を順次ブラッシュアップ）
- 「文化財多言語解説整備事業（国際観光旅客税充当）」で作成したコンテンツを文化遺産オンラインに取り込み公開

④関係省庁・独法との連携を促進

- 観光庁と連携して、インバウンド観光用VRコンテンツの制作、地方誘客に向けたモデル事業の実施、評価・検証（観光庁30年度事業）
- 観光庁及びJNTOと連携して、多言語対応コンテンツやVR対応コンテンツを海外プロモーションに活用
- 「知的財産推進計画2017（知財戦略本部会合決定）」などに基づき、国立国会図書館が中心となって2020年度を目標として構築を目指す、国の分野横断統合ポータル（ジャパンサーチ（仮称））との接続
- 30年度に国立文化財機構に整備予定の「文化財活用センター（仮称）」において、収蔵品のデジタルアーカイブ化を促進するとともに、先端技術を活用した国宝・重要文化財の高精細レプリカやVRを「産学官連携による寄付型プロジェクト」として作成・公開

- **2020年度までに国宝・重要文化財を、2022年度までに国指定文化財をデジタルアーカイブ・多言語化**

スケジュール（予定）

- ・ 2018～2020年度 **国宝、重要文化財**
- ・ 2021～2022年度 **史跡名勝天然記念物**
無形文化財
民俗文化財
重要伝統的建造物群保存地区
重要文化的景観

※ 国指定文化財のデジタルアーカイブ・多言語化が終了後、国登録文化財と地方指定文化財についても、同様に取組を推進する。

○平成30年度より、文化庁と連携してVR対応コンテンツ等の海外プロモーションでの活用（旅前対応）、インバウンド観光用VRコンテンツ等を活用した、地方誘客に向けたモデル事業を実施（旅中・旅後対応）。これら事業の評価・検証を行い、更なる効果的な活用を次年度以降進める。

旅前

旅中

旅後



海外旅行博などでVRを活用し、日本文化をPRすることにより、訪日誘客を促進。

【海外イベントでの活用】



訪日外国人が集まる観光施設内のシアター等で各地の文化財等をVRコンテンツで紹介することにより、地方誘客を促進。

【観光施設等での活用】



その地を訪れた人だけが得られるVR画像（史跡等）をタブレットに保存し、帰国後にその思い出が共有・拡散されることにより、更なる訪日意欲を喚起。

【帰国後での活用】